

第159回教育研究評議会議事要録

日 時 平成30年6月11日（月）14時00分から16時20分まで
場 所 本部棟5階 大会議室
陪 席 千家監事
欠 席 者 肥後副学長，並河医学部長，大谷評議員，大庭評議員

- 議 題1．平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書の提出について
秋重理事から平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書の提出について説明があった。
学長から年度計画「58-1」の進捗状況をⅡとした理由について確認があり，秋重理事から目標値として掲げた4項目のうち2項目について目標値を達成できなかったためであるとの回答があった。
今後，文言の修正がある場合は学長へ一任することとして議決された。
- 議 題2．教育関係共同利用拠点の申請について
荒瀬理事から、教育関係共同利用拠点の申請について説明があり、原案どおり議決された。
- 議 題3．島根大学育成型特別入試「へるん入試」について
武田副学長から、島根大学育成型特別入試「へるん入試」について説明があった。
松崎評議員から入学後の教育の検討スケジュールについて確認があり，武田副学長から「へるん入試」準備委員会において大枠を今年度中に決め，詳細はその後検討をするとの回答があった。
松崎評議員から人間科学部は地域からの期待が大きいと感じているが，人間科学部が「へるん入試」に参画していないことについて確認があり，村瀬人間科学部長から人間科学部は学部設置直後で現時点での改革は相応しくないため，「へるん入試」に参画していないが，今後は前向きに検討するとの回答があった。
学長から教育学部学校教育課程Ⅰ類の「へるん入試」への参画について，今後も引き続き検討するよう意見があり，加藤教育学部長から今後検討していくとの回答があった。
河添評議員から出願前教育について，早めの内容の提示について要望があり，武田副学長から出願前教育の方向性については今年度の秋頃を目途に提示する予定であるとの回答があった。
村瀬人間科学部長から調査書を配点化する意図，各学部は全ての特定型に定員を割り振る必要があるのか，定員を満たさなかった場合の対応について確認があった。武田副学長から調査書は3年間の高校での実績を評価するために配点化するとの回答があった。また，特定型については，全ての学部で全ての特定型への定員配置を依頼しているわけではなく，定員については最終的に一般入試を含めて定員を満たせばよいとの回答があった。

村瀬人間科学部長から調査書は評定平均をそのまま数値化するのではなく、高校での活動内容を大学で点数化するののかとの質問があり、武田副学長から現在検討中であるとの回答があった。

山崎評議員から調査書の配点を100点から80点に変更した理由について確認があり、武田副学長から文部科学省で検討されている「高校生のための学び基礎診断」の進捗状況を勘案した結果であるとの回答があった。

以上の意見があり、「へるん入試」の大枠について、議決された。

議 題4. 名誉教授の称号授与について

荒瀬理事から、名誉教授の称号授与について説明があり、原案どおり議決された。

その他

山崎評議員から教育推進会議において具体的な検討している新学事暦（平成29年6月12日開催 第148回教育研究評議会 議決）について、教育研究評議会においてはフレックスタームを盆休み前の4週間とすることが議決されたのかどうかについて確認があり、新学事暦のフレックスタームは、盆休み前の4週間とすることも含めて議決されたことが確認された。

武田副学長から平成33年度以降の学事暦については、フレックスタームを変更する必要があるれば、教育推進会議で検討し、改めて教育研究評議会へ提案してはどうかとの意見があった。

学長から教育推進会議において新学事暦を検討するにあたり、教員の負担軽減の側面だけでなく、フレックスタームは学生が海外や地域へ出て行く活動の期間を設けることが趣旨であるため、教育面からの側面も踏まえ検討するよう意見があった。

報告事項

学長から、報告事項については、「会議の効率的な開催について（申し合わせ）」に基づき特に説明が必要な事項について報告する旨の説明があり、以下について報告があった。

報告事項1「平成30年度入試実施状況について」はアドミッションセンター美濃地准教授から報告があった。

学長から島根県の進学率は全国平均に比べて低いため、進学率が上昇するような働きかけを行えば、志願者数の増加に繋がるのではないかとの意見があった。

松崎評議員から経済的な理由で進学できない人がいる一方で、松江では子どもが自立し、部屋の余っている住民がおり、そこに学生が住むことで、自治会も盛り上がり、学生も安く住めるといったことを実現できる可能性があるため、アドミッションセンターだけではなく全学的に取り組んではどうかとの意見があった。

学長からアドミッションセンターを中心として、志願者を増やすために全学的に取り組むよう依頼があった。

学長から地域貢献人材育成入試において、総合理工学部及び生物資源科学部の志願倍率が低いことについて質問があり、美濃地准教授から研究分野がどう地域貢献に結び付くのか想像し辛いとの意見を高校から聴取しているとの回答があった。学長から研究分野がどう地域貢献に結びつくかについては、各学部モデルの提案を依頼することの提案があった。

井藤生物資源科学部長から県内出身者数を増加させるためにアドミッションセンターと協力したいとの意見があった。また、学長から対外的にも働きかけを行いたいとの意見があ

った。

小俣評議員から志願者数が減少すると学生の学力が低下する可能性があることについて、学力の低下に対する対策はどこで検討しているのかとの質問があり、美濃地准教授から学力低下も踏まえて、本学の教育全体について高大接続WGを立ち上げて、武田副学長を中心に教育推進センターとアドミッションセンターで検討する予定であるとの回答があった。

報告事項2「平成30年3月卒業・修了者の進路状況について(平成30年5月1日現在)」は荒瀬理事から報告があった。

報告事項4「地方大学・地域産業創生事業について」は秋重理事から進捗状況について報告があり、あわせて本件は、次回7月23日開催の教育研究評議会で審議するとの説明があった。

上園評議員から島根大学の自己負担分の財源について確認があり、秋重理事から大学の機能強化分としている予算を充てることを検討しているとの回答があった。

続いて、上園評議員から交付金終了後の見通しも含めてこの事業が全学的にどのような影響があるのかを次回の教育研究評議会において説明するよう依頼があった。